

2023年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年1月12日

上場会社名 株式会社ジンスホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3046 URL https://jinsholdings.com
 代表者(役職名) 代表取締役CEO (氏名) 田中 仁
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員IR室長 (氏名) 山脇 幹也 (TEL) 03-5275-7001
 四半期報告書提出予定日 2023年1月12日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第1四半期の連結業績(2022年9月1日~2022年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第1四半期	17,051	11.6	780	35.0	665	△3.7	376	△13.1
2022年8月期第1四半期	15,275	3.1	577	△26.0	691	△2.1	433	17.4

(注) 包括利益 2023年8月期第1四半期 392百万円(△10.3%) 2022年8月期第1四半期 437百万円(△1.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第1四半期	16.13	14.24
2022年8月期第1四半期	18.56	16.47

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第1四半期	54,250	20,799	38.3
2022年8月期	54,721	20,406	37.3

(参考) 自己資本 2023年8月期第1四半期 20,799百万円 2022年8月期 20,406百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	-	17.00	-	0.00	17.00
2023年8月期	-	-	-	-	-
2023年8月期(予想)	-	13.00	-	40.00	53.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	36,680	12.2	1,960	3.0	1,810	△16.7	1,000	△14.6	42.84
通期	78,100	16.7	7,000	111.1	6,700	76.8	4,100	446.0	175.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年8月期1Q	23,980,000株	2022年8月期	23,980,000株
② 期末自己株式数	2023年8月期1Q	639,846株	2022年8月期	639,815株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年8月期1Q	23,340,164株	2022年8月期1Q	23,340,216株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理性があると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2022年9月1日～2022年11月30日)における国内経済は、新型コロナウイルス感染症の感染者数については、依然として周期的に増減している状況が続いており、また、ウクライナ情勢の影響等から原油価格の高騰や為替の影響に伴う物価上昇が続く一方、個人消費は政府の旅行支援策等により持ち直しの動きが見られました。世界経済においては、新型コロナウイルス感染症の対応は引き続き各国、各地域によって異なり、とりわけ中国ではゼロコロナ政策による都市封鎖が断続的に行われたため、経済活動に影響が生じておりました。またロシアのウクライナ侵攻による経済的影響が長期化しており、原油や原材料の価格高騰による世界的なインフレ、各国間での金利格差拡大などによる景気の下振れリスクの高まりが懸念されております。

国内眼鏡小売市場(視力矯正眼鏡)は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年同期比は一進一退の状況が継続しており、足許では回復の傾向が見受けられるものの、新型コロナウイルス感染症発生以前の水準にはまだ回復していない状況です。

このような市場環境の中で、当社グループのアイウェア事業では、経営課題として掲げているサプライチェーンの再構築及びイノベティブなプロダクト開発の強化などの取り組みを進めてまいりました。サプライチェーンの再構築につきましては、海外での生産拠点の一極集中の解消や店頭までのリードタイムの短縮を目的に、株式会社ヤマトテクニカルを子会社化し、国内生産体制の強化に着手いたしました。商品開発につきましては、「近視のない世界の実現」に向けた取り組みの一環として、バイオレットライトを用いた近視進行抑制メガネ型医療機器開発の共同プロジェクトを進めており、当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は11百万円となりました。

店舗展開につきましては、当第1四半期連結会計期間末における店舗数は、国内472店舗、海外235店舗(中国175店舗、台湾49店舗、香港7店舗、米国4店舗)の合計707店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は、主に海外アイウェア事業において新型コロナウイルス感染症の影響から回復したことに加え、国内及び海外の新規出店の効果もあり17,051百万円(前年同期比11.6%増)となりました。営業利益は780百万円(前年同期比35.0%増)、経常利益は、仕入決済に係る為替の影響があったこと等により665百万円(前年同期比3.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は376百万円(前年同期比13.1%減)となりました。

セグメント業績の概要は、次のとおりであります。

セグメント別の売上高

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)	構成比	前年同期比増減
国内アイウェア事業	12,466百万円	73.1%	4.8%
海外アイウェア事業	4,584百万円	26.9%	35.5%
合計	17,051百万円	100.0%	11.6%

〈国内アイウェア事業〉

国内アイウェア事業につきましては、「JINS CLASSIC」シリーズ、「STANDARD」シリーズをはじめとした定番商品を約7年ぶりに刷新し、好評を博したほか、ミッフィーと仲間たちが登場するディック・ブルーナの絵本のイラストとコラボレーションした「JINS×Dick Bruna」が好調に推移し売上を牽引しました。また、JINSアプリの会員数が2022年11月末現在で約1,171万人となり、引き続きEC販売も堅調に推移しました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、感染者数の増減による影響は徐々に縮小しつつあります。

店舗展開につきましては、国内店舗数は472店舗（出店10店舗、退店2店舗）となりました。

以上の結果、国内アイウェア事業の業績は、売上高12,466百万円（前年同期比4.8%増）、営業利益463百万円（前年同期比10.6%減）となりました。

〈海外アイウェア事業〉

海外アイウェア事業につきましては、中国においては、新型コロナウイルス感染症の影響は政府のゼロコロナ政策により市況が大きく変動しており、一時は春先の大都市圏での都市封鎖の反動から客足が戻り、業績も回復していましたが、8月後半から再び地方都市を中心に都市封鎖が増加したことにより客足に影響が出始めており、今後の業績への影響を懸念しております。

台湾においては、新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であり、オプションとして取り揃えている日本製レンズが好評を博していること等により業績は順調に推移しております。

香港においても、新型コロナウイルス感染症の影響は限定的であり、業績は引き続き黒字となりました。

米国においては、不採算であったサンフランシスコ旗艦店を8月をもって閉店し、EC事業を中心とした事業規模の拡大を目指した事業構造改革を進めております。

店舗展開につきましては、中国175店舗（出店1店舗、退店なし）、台湾49店舗（出店、退店なし）、香港7店舗（出店、退店なし）、米国4店舗（出店なし、退店2店舗）の合計235店舗となりました。

以上の結果、海外アイウェア事業の業績は、売上高4,584百万円（前年同期比35.5%増）、営業利益316百万円（前年同期比431.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2022年8月期末 (2022年8月31日)	当第1四半期連結 会計期間末 (2022年11月30日)	増減	増減率(%)
総資産	54,721	54,250	△471	△0.9
負債	34,314	33,450	△863	△2.5
純資産	20,406	20,799	392	1.9

(イ)資産

流動資産は、32,381百万円となり、前連結会計年度末に比べ792百万円減少いたしました。

これは主に、商品及び製品が1,194百万円増加したものの、現金及び預金が2,393百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、21,868百万円となり、前連結会計年度末に比べ320百万円増加いたしました。

これは主に、新規出店等に伴い建物及び構築物等の有形固定資産が158百万円増加、敷金及び保証金が44百万円増加したことによるものであります。

以上により、総資産は、54,250百万円となり、前連結会計年度末に比べ471百万円減少いたしました。

(ロ)負債

流動負債は、22,056百万円となり、前連結会計年度末に比べ643百万円減少いたしました。

これは主に、納税により未払法人税等が543百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、11,394百万円となり、前連結会計年度末に比べ220百万円減少いたしました。

これは主に、長期借入金が96百万円減少したことによるものであります。

以上により、負債合計は、33,450百万円となり、前連結会計年度末に比べ863百万円減少いたしました。

(ハ)純資産

純資産合計は、20,799百万円となり、前連結会計年度末に比べ392百万円増加いたしました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益376百万円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2022年10月14日に発表いたしました業績予想から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,430	19,036
売掛金	4,514	4,445
商品及び製品	5,406	6,600
原材料及び貯蔵品	446	546
その他	1,376	1,752
流動資産合計	33,174	32,381
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,610	7,692
その他(純額)	2,139	2,216
有形固定資産合計	9,750	9,908
無形固定資産	2,196	2,269
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,910	4,954
その他	4,690	4,735
投資その他の資産合計	9,601	9,690
固定資産合計	21,547	21,868
資産合計	54,721	54,250

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,535	1,976
1年内償還予定の 転換社債型新株予約権付社債	10,033	10,016
短期借入金	1,869	2,214
1年内返済予定の長期借入金	70	56
未払金及び未払費用	4,676	5,495
未払法人税等	912	369
賞与引当金	67	93
商品保証引当金	168	161
事務所移転費用引当金	235	235
事業構造改革費用引当金	628	64
資産除去債務	356	357
その他	1,145	1,013
流動負債合計	22,699	22,056
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	10,025	10,022
長期借入金	131	34
資産除去債務	265	266
その他	1,193	1,071
固定負債合計	11,615	11,394
負債合計	34,314	33,450
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,202	3,202
資本剰余金	3,228	3,228
利益剰余金	18,623	18,999
自己株式	△5,003	△5,003
株主資本合計	20,051	20,427
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	189	193
為替換算調整勘定	166	178
その他の包括利益累計額合計	355	371
純資産合計	20,406	20,799
負債純資産合計	54,721	54,250

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2021年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2022年11月30日)
売上高	15,275	17,051
売上原価	3,341	3,553
売上総利益	11,934	13,498
販売費及び一般管理費	11,356	12,718
営業利益	577	780
営業外収益		
受取利息	21	20
為替差益	130	—
補助金収入	73	107
その他	12	19
営業外収益合計	237	147
営業外費用		
支払利息	39	34
持分法による投資損失	22	30
不動産賃貸費用	56	50
為替差損	—	126
その他	6	20
営業外費用合計	124	262
経常利益	691	665
特別損失		
固定資産除却損	37	28
店舗閉鎖損失	3	3
店舗臨時休業による損失	—	19
特別損失合計	40	51
税金等調整前四半期純利益	650	613
法人税、住民税及び事業税	162	204
法人税等調整額	53	32
法人税等合計	216	237
四半期純利益	433	376
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	433	376

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2021年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2022年11月30日)
四半期純利益	433	376
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	3
為替換算調整勘定	4	8
持分法適用会社に対する持分相当額	—	4
その他の包括利益合計	4	16
四半期包括利益	437	392
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	437	392
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第1四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	11,890	3,384	15,275	—	15,275
外部顧客への売上高	11,890	3,384	15,275	—	15,275
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85	0	85	△85	—
計	11,975	3,385	15,361	△85	15,275
セグメント利益	518	59	577	—	577

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II. 当第1四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	12,466	4,584	17,051	—	17,051
外部顧客への売上高	12,466	4,584	17,051	—	17,051
セグメント間の内部 売上高又は振替高	170	1	172	△172	—
計	12,637	4,586	17,224	△172	17,051
セグメント利益	463	316	780	—	780

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。